

12月末の人口  
 世帯数 590世帯  
 男 780人  
 女 763人  
 計 1,543人  
 (馬路 1,065人)  
 (魚梁瀬 478人)

広報  
 うまひ

昭和62年1月1日発行  
 第一二二号  
 編集 馬路村教育委員会  
 印刷 安芸印刷



↑馬路熊野神社舞神楽発表・奉納 (12月7日)

**村議会議員選挙 投票日 1月14日(水)**  
**どうかすあなたの一票**

棄権はだめだよ!



任期満了に伴う馬路村議会議員選挙は、1月9日に告示され、1月14日が投票日となっています。ご都合で当日不在の方は、9日から不在者投票ができますので、棄権なさないようお願いします。

- 投票時間  
午前 7:00~午後 6:00
- 投票会場  
馬路地区——就改センター  
魚梁瀬地区——魚梁瀬公民館

# 今月のスポット

## ≡ 10 月 ≡

- 30日 実年ソフトボール教室 (馬路村民運動場)
- 31日 楽焼教室 (馬路小学校)

## ≡ 11 月 ≡

- 1・4日 木彫り教室 (就改センター)
- 2日 魚梁瀬婦人学級 (伊野町・高知市)
- 4日 馬路地区慰霊祭
- 8~9日 第14回馬路村文化祭 (馬路体育館ほか)
- 9日 県民スポーツ安芸地区大会 (室戸市)
- 10日 魚梁瀬地区慰霊祭
- 11日 村内中学校弁論大会 (魚梁瀬体育館)
- 18日 楽焼教室 (馬路小学校)
- 21日 安芸林業事務所間伐濃密講習会 (馬路地区)
- 21日 馬路村林業青年クラブ「間伐推進標語板」設置 (久木)
- 21日 馬路・魚梁瀬高齢者教室 (安芸市)
- 22日 第1回馬路村健康まつり (就改センター)
- 26日 馬路家庭教育学級 (就改センター)
- 27日 魚梁瀬地区スカッシュバレーボール大会 (魚梁瀬体育館)
- 28日 魚梁瀬~馬路健康づくり駅伝
- 29日 村内芸能発表会 (就改センター)
- 30日 スポーツ指導者研修会 (馬路体育館ほか)

## ≡ 12 月 ≡

- 2日 馬路高齢者教室 (就改センター)
- 3日 村おこし講演会 (就改センター)
- 4日 「人権モデル地区」キャンペーン (馬路小学校)
- 5日 馬路地区はし拳大会 (就改センター)
- 6日 馬路熊野神社秋祭
- 7日 「天の神の神楽」発表・奉納 (馬路熊野神社)
- 7日 馬路小・中学校校内相撲大会 (馬路相撲場)
- 7日 馬路熊野神社奉納相撲大会 (馬路相撲場)
- 8日 産業建設常任委員会 (就改センター)
- 8日 新入児検診 (魚梁瀬小学校)
- 9日 バドミントン教室 (馬路体育館・16日、23日にも開催)
- 9日 新入児検診 (馬路小学校)
- 10日 魚梁瀬地区秋季バレーボール大会 (魚梁瀬体育館)
- 14日 第12回安芸タートルマラソン大会 (安芸市)
- 19日 安芸郡市中学校駅伝競走 (室戸市)
- 19~23日 12月定例村議会 (就改センター)
- 20日 魚梁瀬婦人学級 (魚梁瀬公民館)
- 22日 魚梁瀬小学校校内マラソン (魚梁瀬)
- 25日 民生委員愛のもちつき (就改センター)
- 26日 親子たこづくり教室 (就改センター)
- 28日 官庁御用納め

## フォト・フォーカス



↑ 10月31日 馬路楽焼教室



↑ 11月21日 間伐濃密講習会



↑ 11月22日 馬路村健康まつり



↑ 11月27日 魚梁瀬スカッシュバレー



↑ 12月25日 愛のもちつき

村内あちらこちら

# 昭和62年頭の所感

## 村の活性化と

### 福祉向上を

馬路村長

西野真司



新年おめでとうございます。みなさまおそろいで、よい年をお迎えのことと存じます。昭和六十一年を振り返りますと、村にとってまさに激動の一年でありました。

六月、魚梁瀬木材救済問題は村中に大きな波紋を投げかけ、前村長の退任まで発展しました。そして、八月に微力な私が村政をおあずかりすることとなり五か月、ますますその職責の重みを感じている次第です。

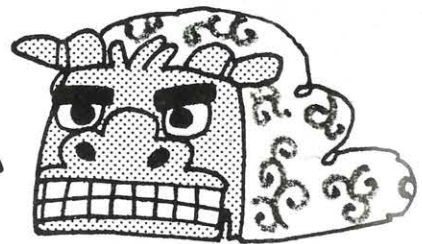
魚梁瀬木材問題は、十一月の和議認可によって最悪の事態は回避され、再建へ向けスタート

することになりました。長びく不況の中で、前途は大変厳しいものがあるかと思いますが、どうか再建復興なることを祈る次第です。

次に、昨年発表された国有林野事業の合理化問題は、国有林とともに発展推移してきたわが村にとって、まことに大きな問題であります。これは、一兆三千億円に及ぶ負債解消のため、六十八年度までに現在の人員を半分にするというもので、仮りに魚梁瀬営林署にそのまま適用されると、現在約二百五十人の職員が、六十数人になるといふ見方をされる方もいます。避けて通ることはできない問題であり、村としてどう対応していくか、大きな課題であります。

一方、少しではありますが、明るい話題もありました。

懸案であったごみ焼却場、馬路保育所が、あいついで落成しました。また、長い間ご迷惑をおかけしていた診療体制も、四月一日付けで自治医科大出身の高橋先生をお迎えすることができ、ようやく将来ともに安心できる体制となりました。



# 迎春

魚梁瀬ダム水利権更新問題も、議会の適切な協力を得、一応の結着をみるこができました。

さて、諸々の大きな課題をかかえながら、昭和六十二年を迎えたわけですが、不況の長びく林業木材界は、必ずしも明るい展望はありません。

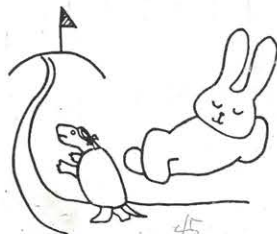
しかし、本年中に完成する魚梁瀬公共用地の利用計画、木の里づくりを中心とする村おこし事業などを重点に、村の活性化を図り、村民福祉の向上に全力を傾注したいと思えます。

村民のみなさまの一層のご協力をお願いする次第です。昭和六十二年が村民にとって、馬路村にとって、幸多からんことを念じつつ、年頭のごあいさつといたします。

# 今年卯年

ウサギは身近な動物で、食用や毛皮用、ペットなどとして広く飼われています。村内には野生のウサギもたくさんいます。また、昔からあるいろいろな物語にもよく登場しています。インソップ童話の「ウサギとカメ」や、日本の「かちかち山」「因幡の白ウサギ」などが有名です。

さてみなさんは、これらの物語に登場するウサギについてどんなイメージをお持ちですか。「ウサギとカメ」のウサギは、油断して昼寝をしてしまつので、自信家



とだましたつもりが、皮をむかれて赤裸にされてしまいました。こうしてみると、ウサギに対するイメージはいろいろのようです。

生物学的にみても、ウサギはなかなかしたたか者です。砂漠、草原、高地、ツンドラなどあらゆる所に住むことができ、糞を食べて反すう(一度飲みこんだものを再び食べる)の代わりにする習性があります。

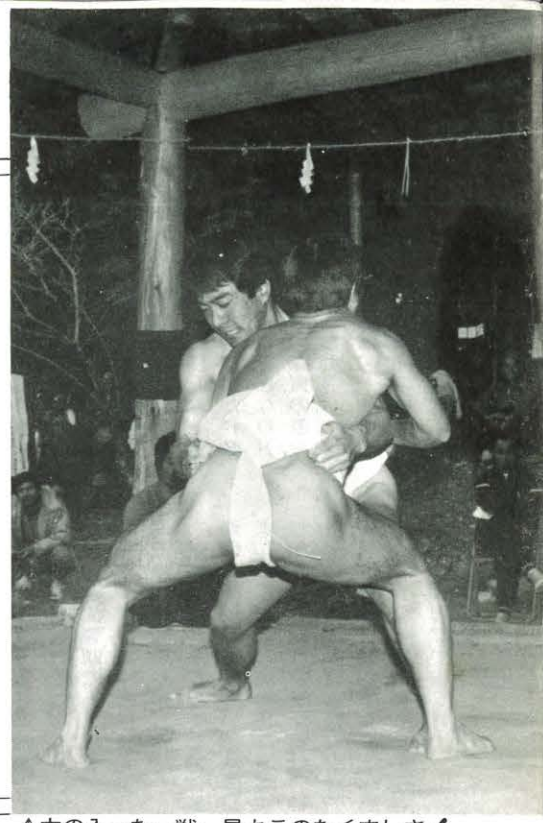
また事典にはウサギの飼育は容易で、飼育箱は幅・奥行六十cm、高さ四十五cmあればいいという意味のことがでていました。なるほど、これが例のウサギ小屋の由来かどうなずいた次第です。

ウサギ年の今年、国連の定めた国際居住年に当たります。貿易摩擦解消のためにも、内需を拡大してもっと住宅を作り、みんながゆつたりとした家に住めるようにしたいものです。



## まわし姿もりりしく

スポーツにはそれぞれに似合う衣装があるもの。相撲にも、ちゃんと「まわし」があります。若い人の中には「かっこ悪い」といやがる人もいますが、そんなことはありません。よく見てください。やっぱり「まわし」が一番だと思いませんか。(十二月七日、相撲大会から)



↑力の入った一戦。見よこのたくましさ!

# フォト ニュース



恒例の花台とのぶつかりあい↓

↑みこしきくぐるにじりやくが……

## 神祭とおみこし

神祭に欠かすことのできないのが神さまの乗り物「おみこし」です。この「おみこし」、神さまが重くなるのか、時間がたつにつれだんだん重くなってきます。肩は痛くなるし、お酒はまわってくるしで、最後は泣きだしそうな顔でかつぐ若者の姿も……。昔は、おみこしをかつぐ者は数日前から神社に泊まって心身を清めたそうです。それにしても、年々見物人が少なくなっているのは、さみしいものです。(十二月六日、馬路地区神祭から)



## 神楽・復活二年目

十二月七日、熊野神社で「舞神楽」の発表と奉納が行われました。これは古式行事保存会と村内の有志の方々が取り組んでこられたもので、復活二年目の今年には新人も加わり、一段と充実したものとなりました。



↑写真の舞は「盆の舞」。見ているよりもずっとハードなもの。

ふるさと

いさいき

←威勢のよい中にも女らしさが↓  
お酒のため審判も大変です



## ガンバレ！ハチキン拳士

男女平等の世の中、女性もいろんな分野で活躍しています。十二月五日に八十二人が参加して行われた馬路ハシ拳大会にも八人の女性が参加。なかでも西野幸子さん（日浦）は、ベテラン男性を次々と破ってベスト六に入るなど大健闘しました。その内に女性の優勝者が誕生するかも……。なお、この大会、団体戦では森林組合D、個人は下田博之さん（相名）が初優勝をかざりました。



# 届け！私たちの願い

## 「人権風船の集い」

和歌山から返信も……

人権週間の初日に当たる十二月四日、「人権を大切に  
する心を風船のたよりで結ぶ集い」が行われ、児童・生徒  
たちが通信カードを付けた色とりどりの風船が、冬空に向  
け一斉に放たれました。

### メッセージを 風船にのせて

この催しは、例年、安芸人権擁護委員協議会や高知地方事務局安芸支局などが安芸地区の市町村で開いているもので、今回は、「人権モデル地区」の指定を受けた馬路村で行われました。当日は天候にも恵まれ、会場となった馬路小学校の校庭には、馬路小・中学生と保育園児計百人余りのほか、教職員、父母、安芸地区の市町村職員など総勢二百人が集まりました。馬路小の浜田節子校長や西野真司村長のあいさつに続いて、高知地方事務局の山川只夫局長が、馬路小・中の人権作文などへの取組に謝辞を述べ、馬路中学校に対して感謝状を授与。なかでも優れた作文を書いた中岡恭子さん（馬中一年）に、表彰

状が手渡されました。

馬路小学校児童を代表して五年生の影山龍彦君が、「みんな  
で明るい生活ができるように人権を大事にしましょう」と宣言。笛の音を合図に、約六百個の風船が空に舞い上がりました。

通信カードの表には、「いじめはしない」「お年寄りを大切に」などの標語。裏には「風船を拾った人は馬路小・中学校に連絡をください」と書かれています。

これまでの例では、かなりの風船が海を渡って和歌山県などに届いているとのこと。

### さっそく届いた 返信に笑顔

この「人権風船」を受け取られた方々から、いくつか返信が届けられています。その中から、一番最初のをご紹介いたします。

↓この子たちのすこやかな成長のためにも明るい社会を



返信を寄せてくださったのは、和歌山県の白浜温泉に住む駒井虚峰さんで、次のような返事をくださいました。

「あなた方の飛ばされた赤い風船が国内航空路を伝って東へ、紀伊水道を越えて私のところへまいりました。十二月五日、私の駐車場に落ちておりましたのでお届けします」

この風船は、馬路中一年の中河緑子さんが飛ばしたもので、「人とさえ認められずに涙たえ」という標語が書かれていました。中河さんは、ちよつとてれながらも、少女らしい笑顔をこぼしていたということです。

### おわびと訂正

馬路村、村教委、村同和教育研究協議会の発行によるカレンダーの中に誤りがありました。おわびして次  
のとおり訂正いたします。  
○七月の標語「老人や障害者にも住みよい社会」  
は、山中一之君（魚梁瀬中三年）の作品です。  
○十月の標語「差別する心にくむ明るい社会」  
は、山中太志君（魚梁瀬中三年）の作品です。

## 人権作文 入選者発表

馬路村人権モデル地区活動推進協議会では、十月に村内の小・中学生から、人権に関する作文を募集しました。入選者は次のとおりです。

なお、この中の内原美穂さんと伊吹哲君の作品は、広報うまじ一二〇号に掲載してあります。

### ■高知地方事務局長賞

▽中岡恭子（馬路中・一年）

### ■村人権モデル推進協賞

### ▼小学校の部▲

▽清岡 歩（馬路小・二年）

▽井上真共（魚梁瀬小・二年）

▽西尾 舞（馬路小・三年）

▽山中知穂（魚梁瀬小・三年）

▽山中直史（魚梁瀬小・三年）

▽式部由里蘭（馬路小・四年）

▽大野美幸（馬路小・五年）

▽清岡理奈（馬路小・五年）

▽川田由紀（魚梁瀬小・五年）

▽吉田和加（魚梁瀬小・五年）

### ▼中学校の部▲

▽伊藤美央（馬路中・一年）

▽内原美穂（魚梁瀬中・一年）

▽乾 愛佳（馬路中・二年）

▽伊吹香絵（魚梁瀬中・二年）

▽伊場靖香（馬路中・三年）

▽伊吹佳恵（馬路中・三年）

▽伊吹 哲（魚梁瀬中・三年）



「巨漢どうしの激しいぶつかり」



# 熊野神社奉納相撲大会

団体 魚営林署 個人 武井康志

十二月六日、馬路相撲場で行われた熊野神社奉納相撲大会には、今年も馬路村内から六チーム・十八人が参加。天候にも恵まれ、くりひろげられる熱戦に盛んな拍手と声援がおくられました。

## 団体戦の部

団体戦は、三チームずつ二つのゾーンで予選が行われました。Bゾーンからは、前回準優勝の魚梁瀬営林署(内原秀夫・秋山雅弘・山崎国広)が決勝へ進出。

Aゾーンは白熱した取組の末、三チームが一勝一敗となり、代表者の決定戦となりました。その結果、プリバリーズ(武井康志・大野源人・岩城敬志)が、教職員と役場をくだして決勝戦へこまを進めました。

決勝戦では名勝負が期待されましたが、地力に勝る営林署が安定した力で若いプリバリーズを寄せつけず、三〇〇で優勝しました。

また、初出場ながら大健闘をした教職員には、特別賞が贈られました。

## 個人戦の部

引きつづき行われた個人戦の部では、優勝候補が次々と敗れる波らんに富んだ展開となり、声援も一層盛りあがりました。

そんな中、決勝戦へ勝ち進んだのは、団体・個人を通してここまで土つかずのベテラン、秋山雅弘さん(35歳)と、第一経済大学四回生の武井康志君(22歳)の二人です。

決勝戦らしい熱の入った相撲となりましたが、武井君が右上手投げで初優勝をかざりました。個人・団体を通しての各賞および個人戦の決果は次のとおり。

- ▽殊勲賞——清岡明德(相名)
- ▽敢闘賞——山崎出(魚梁瀬)
- ▽技能賞——山崎国広(魚梁瀬)
- ▽特別賞(努力賞)
- ▽個人の部——大野源人(相名)
- ▽団体の部——教職員チーム
- (谷井慎二・陰山陽一・五藤寿史)



## 村体育会表彰 61'優秀賞

昭和六十一年中のスポーツ活動で、馬路村体育会から優秀賞を受けた個人・団体は次の方々です。これからも、がんばってください。

### 個人の部

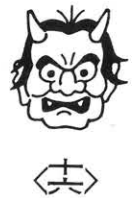
- ▽小原昌信(窪川高校教員)
- 第41回国体秋季大会  
成年男二百斤——21秒98
- ▽乾正一(安芸高校二年)
- 全国高校駅伝県予選  
第二区(三十キロ)
- 区間一位——8分59秒
- 四国駅伝競走大会  
第二区(三十キロ)
- 区間三位——8分56秒
- 伊藤美央(馬路中一年)
- 郡市中学校秋季陸上大会

### 団体の部

- ▽馬路体育会野球部
- 高松宮賜杯高知県大会  
準優勝(四国大会へ出場)
- ▽魚梁瀬体育会ソフト部
- 県民体育大会安芸予選で  
好成绩(県体へ出場)
- ▽馬路スカッシュ愛好会
- 安芸郡市スカッシュ大会  
準優勝

- ジュニア走り高跳び  
第一位——1尺30
- ▽尾谷暁(馬路中二年)
- 郡市中学校秋季陸上大会  
ベスト八百メートル  
第一位——2分42秒8
- ▽伊場靖香(馬路中三年)
- 郡市中学校秋季陸上大会  
ベスト砲丸  
第三位——9尺34  
ベスト走り幅跳び  
第三位——4尺28

# 馬路村の歴史と伝説



馬路熊野神社 ②

馬路公民館長 山中 巖

## 熊野神社のご神体は？

現在、馬路熊野神社には、銅鐸をはじめ和鏡や石などがご神体として祭られています。

古文書をひもといてみますと、「語伝覚」(注)には次のように記されています。

「御神舂厨子入不開無拜見  
外二鏡十三面(中略)  
銚十三本(中略)  
古弓五張(中略)  
石数々色替リアリ」

このことから、昔は古弓や銚なども祭られていたことがわかります。

これらのご神体のうち銅鐸は厨子に納められ、古来より拝観してはならないとされてきました。このため、それが何であるか長い間謎に包まれていました。銅鐸であることがはっきりしたのは、昭和三十八年に厨子に安置されていたのを耐火金庫に移

## 異色をはなつ馬路の銅・鐸

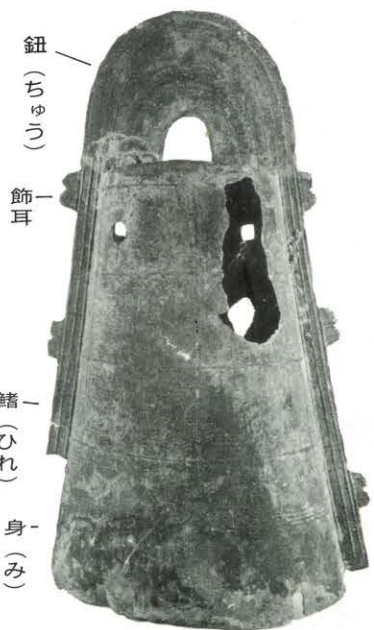
馬路熊野神社の銅鐸は、高さ五十九・六センチメートルで、文様の構成や形状から正式には袈裟禪文鐸と呼ばれるものです。これを拝観して気がつくのは次のようなことです。

- 一、身(鐸の主要部で、扁円形の平面をもった筒形をしている)に大きな傷口がみられる。
- 二、鈕(身の上部に立っている半円形の部分)の上にあるうず巻き型の飾耳がこわれてなくなっている。
- 三、身と鑿(身の左右についているうすい帯状の突出部)との間に土砂がついて、そのまま残っている。
- 四、全体的に文様が薄くなっている。

この大きな傷口(穴があいている)は、土の中から掘り出されるときに、鍬のような用具で傷つけられたもので、飾耳がこわれているのも掘り出すときに無理をしたためではないかと思われる。

土砂がついているのは、まさしく土中に埋められていた証拠だといえます。また、文様が薄くなっている理由としては、次の二つのことが考えられます。

県有形文化財の熊野神社銅鐸



鈕(ちゅう) 飾耳 一 身(み) 一 鑿(ひれ)

- 一、同じ鑄型でいくつかが製作されたもので、後で作られたために型が磨滅していて、できあがったときから薄い。
- 二、祭器などに使われて、何回も土中に埋められたり、掘り出されたりしているうちに薄くなった。

考古学者の岡本健児氏と県教育委員会の山本哲也氏は、馬路の銅鐸を詳しく調査し報告書をまとめました。

少し専門的になりますが、その結論だけを記してみました。

「馬路の銅鐸は、三河・遠江地方で製作された『三遠式銅鐸』や、近畿地方で製作された『近畿式銅鐸』のいずれにも属していない。いわば、両方の性質を具備しながらも、違った一群に位置づけられる。」

このように馬路の銅鐸は、県

## 注 語 伝 覚

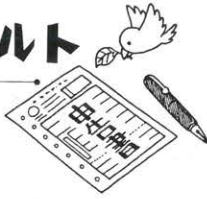
慶長三年(一五九八年)に書かれた「語伝覚」は、虫食い破損のため元文年間(一六六〇年)に書きかえられ、馬路熊野神社の宮司である大野家に蔵されています。

これには、熊野神社勧請の由来・神領・古式行事はもとより、各村々の神社の由来やご神体、さらに金林寺の「謡の口開け」などの貴重な行事が記されています。



# 税金アラカルト

## 所得税の確定申告



昭和61年分の所得税の確定申告は、2月16日から始まります。申告期限は3月16日ですが、期限間近になりますと税務署は大変混雑します。確定申告はできるだけ早めにお済ませください。

### 確定申告をしなければならない人

次のような場合は、確定申告をしなければなりません。  
 ○事業をしている場合、不動産収入のある場合、土地や建物を買った場合などで、昭和61年中の所得金額の合計額が、基礎控除、配偶者控除、扶養控除などの所得控除の合計額を超えるとき。  
 ○サラリーマンで、給与の年収が1,500万円を超える場合、二か所以上から給与を受けている場合、給与所得や退職所得以外の所得金額の合計が20万円を超える場合など。

### 還付を受けるための確定申告

確定申告をする必要のないサラリーマンでも、雑損控除や医療費控除、住宅取得(特別)控除などが受けられるときは、確定申告をすれば源泉徴収された所得税が還付されます。この還付を受けるための申告は1月1日以降提出できます。申告書は早めに書いて、できるだけ郵送で提出してください。

また、還付を受けるために確定申告をする場合には、給与所得や退職所得以外の所得金額の合計が20万円以下であっても、これを含めて申告しなければなりません。

### 正しい確定申告を

所得税は、「申告納税制度」を採用しています。これは、納税者が自ら所得金額や税額を計算し、それに基づいて申告し納税するという制度です。この制度では、納税者が申告をしたときに納税義務が確定します。

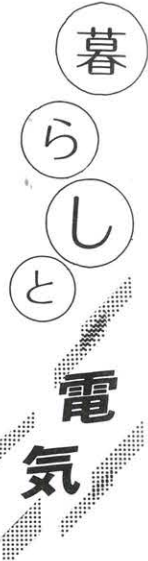
しかし、確定申告をしなければならぬのに期限までに申告をしなかったり、誤った申告をしたりすると、後で不足の税金を納めるだけでなく、加算税や延滞税も納めなければならなくなります。そんなことのないように正しい申告と納税を期限内に済ませましょう。

なお、所得や税額の計算の仕方、申告書の書き方などで分からない点がありましたら、安芸税務署でお尋ねください。



あなたの頭の上の照明器具は汚れていませんか。照明器具の汚れには、案外気がつかないものです。特に表面積の大きい蛍光灯は、台所

照明器具の掃除は手まめに



などの汚れやすい場所で一年間掃除しないと、約四十パーセントも明るさが低下することがあります。

明るい部屋は大変気持ちよいものです。照明器具やランプは、年に二〜三回はきれいにしましょう。

### 電気配線は余裕をもって

私たちの家庭にある電気器具を安全に上手に使うためには、十分ゆとりのある屋内電気配線が必要です。新・増築の際には、

将来の設備増加も考え、余裕をもった屋内配線を計画してください。



単相三線式配線なら、百ボルト用だけでなく二百ボルト用機器も使えて便利です。

また、一つの回路で一度にたくさん電気を流すと、電線が加熱して思わぬ事故の原因となります。電子レンジやルームエアコンなど、ワット数の大きい電気器具を使う場合は、電気工事店に頼んで専用の回路を設けましょう。

### 狩猟事故をなくそう

なくそう

イノシシにウサギにと、馬路でも狩猟シーズンたけなわしかし、この時期に心配されるのは猟銃による事故です。狩猟人口の多い高知県では、

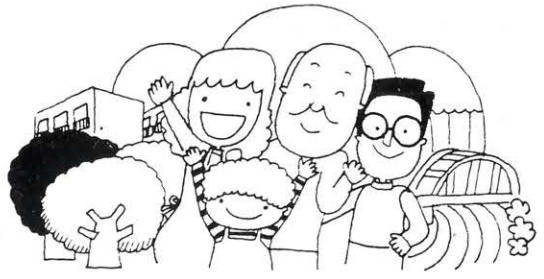


- 銃の機能点検を必ずする。
- 猟場以外では、銃を銃ケースなどに納めて携行する。
- 弾の装てんは発射する直前にし、猟場を移動するときには必ず弾を抜く。
- 獲物が確認できないときは発射しない。
- 猟友仲間の位置を確かめる。
- 銃や弾の盗難・紛失などに十分注意し、車や宿舎などに放置しない。
- 銃と弾は、それぞれ別の堅固な保管設備に鍵をかけて保管する。
- また、野山で作業をされる方も出来るだけ目立つ服装をして、被害にあわないようにしましょう。

昨シーズンも三件の事故が発生しています。これらの事故は、いずれも、ハンター自身が銃や弾の基本的な取り扱いを守らなかったことが原因となっています。事故のない楽しい狩猟をするために、次の点を必ず守りましょう。

狩猟人口の多い高知県では、昨シーズンも三件の事故が発生しています。これらの事故は、いずれも、ハンター自身が銃や弾の基本的な取り扱いを守らなかったことが原因となっています。事故のない楽しい狩猟をするために、次の点を必ず守りましょう。

# つくるページ のひろば



## 土佐和紙の里

### 伊野をたずねて

魚梁瀬 井上由利子

去る十一月二日の日曜日、私たち魚梁瀬地区の婦人、一行十八名は、湯浅建設さんのバスをお借りして、研修旅行を行いました。

これは、今年から開催されている魚梁瀬婦人学級の一環として行われたもので、午前七時三十分に魚梁瀬支所前を出発し、一路、伊野町へと向かいました。折りしも秋たけなわ、魚梁瀬から馬路間の紅葉はちょうど見ごろ。乗用車の往復では見られない、一段高い位置からの窓外の景観は目新しく、ひとしきり感嘆の声があがりました。

馬路からは、教育委員会の岡林先生が同行してくださり、午前十時三十分、やっと目的地の

「紙の博物館」に到着しました。「紙をすく、いのは水辺のふりし町」という句からも分かる通り、伊野町は清流仁淀川の豊かな水資源の恵みを受け、古くから「紙の町」として全国に知られてきました。

全国でもただ一つだけというこの「紙の博物館」は、昭和六十年三月にオープンしたもので、かわら屋根に白壁という、日本情緒を保ちながらもどっしりとしたたたずまいは、私の想像どおりでした。

一階は、紙製品の展示や即売店、手すき和紙の実演場などがあり、ちょうど連休でもあることから、手すき和紙の実演コーナーは、親子の団体で大変な



←手すき和紙の実演コーナー  
(紙の博物館で)

ざわいでした。

実際に「手すき」の手ほどきを受けた子どもたちの歓声の中に、和紙の持つ魅力を実感したという驚きが込められていました。

二階がいよいよ念願のちぎり絵の展示会場です。というのも、一行のほとんどはちぎり絵の愛好者で、広く生の作品を鑑賞したいと念願していたので、この機会は願ってもないものでした。

なじみのある教材の習作から先生方の力作まで、ながめてもながめても見飽きません。けれども見学時間は一時間しかなく、心を残しながらもう一つの目的



↑ちょっとおめかしをして、芸術の秋を楽しみました。

である県展鑑賞のため、高知市の県立郷土文化会館へと向かいました。

今度は自由行動で、各自思い思いに昼食をとり、しばし芸術の秋を堪能しました。

県展には、本年度馬路村にちぎり絵を教えに来てくださっている北村霞代子先生も出品されていきました。また伊野では、昨年の講師であった大久保紀子先生が指導されている様子などを目のあたりにしました。そして、我々も県下を代表する先生方に教わっているんだという実感を覚え、帰路の疲労感にも快い余韻が残りました。

# みんなで 村民

## めざめ

相名 H・清岡



うつろに、今朝は特別な朝なのだ。もう少しこのぬくもりの中にしよう……。いつもなら寝床から這い出る時刻なのに、たぶん焦げ茶色だったと思う毛布を、首の回りへ巻き込むように引っぱりあげて、目をつむってから四十分ほどたってしまった。ずいぶんとまぶたの重いのは、

家族が寝静まってきたからの湯割りの焼酎しょうちゅうのせいに違いないと昨夜を思う。

手足を大の字にそろりと伸ばしてみる。少し固めの敷布団と毛布の間を伸びていくにしたがい、ひんやりと気持ちよい。

一つ大きく息を吸ってみる。

今朝は、スゴロクの台紙の左下、一番すみこの出発点へ、アガリから三百六十五段一気に戻ってしまったような状態と、三百六十五日分の荷物を積み重ね、片づいているはずが、まだ自分一人だけ背負っていて当惑しきっているような、そんな二つの状態が共存しているように思える。

谷水を引き込んである水おけから洗面器へ、ひしゃくで汲み移した手の切れるような清水で、

お一日ひつひの朝日に向かって顔を洗い、一年の無事を祈る。二十数年前に私にそう教えた八十五歳の祖母は、いつになく早く起き、門松さまを祭る準備をしているようだ。ひと切り、ひと切り、念を押すようにまな板を打つ包丁の音が、階下から確かな今年の命を伝えている。

たった今、赤子の額をなでるようにおずおずと斜めに射し込んできた朝日を、障子が映している。その向こうには、まだ踏み跡のない霜に凍った段々田と、今では人里へも影を大きく長く伸ばした黒褐色の杉山が、きのうと変わらず冷えびえと広がっている。

寝巻の上へ丹前を羽織ったままで、足裏に冷たい白木の階段を降りる。

イノシシ追山の連中か、急がすように吠える数頭の猟犬と、セルモーターの音を思い出しながら、ガラス戸を開けて表に出る。

朝日が意外にまぶしく強く、三十数回目の正月が、三十数歳の心と体を迎えていた。

## 馬路・魚梁瀬

### 俳句会

千鶴子

ざわめきつ影だけ暗き十三夜  
仏前に木犀の香まとい座す  
縁おそき真面目息子や芒の穂

眸

採血の痕あと黄落を戻りけり  
郵便受何もなき日の秋ざくら  
かすかなる葉も陰持ちて草紅葉

雅子

衣がエインバの似合う父でした  
応援の肩かたむきて綱を引く  
夕暮れて家なきごとく稲かける

麗山子

百姓の手は淋しくて柿を食う  
熟柿吸うて流人のごとく堂めぐる  
猪と居て猪の声だす男の秋

善心

揚羽来て尼僧に見せる衣かな  
亡き友の句集を読みて彼岸花  
運動会児の骨ひろう人も居る

清子

琴を弾く胸でゆれれる赤い羽根  
さわやかな日暮の町にサンマ焼く  
たび立ちの秋空映えて夫の行く

百合子

手を強く結びなおして秋の茄子  
山鳩や見慣れし山の秋の景  
さわやかやゲートボールの受答

喜美栄

亡き母の齢に近づく秋深し  
鴉叫ぶ球の行方を見失う  
石錘の岩の鋭さ霧も飛ぶ

うた子

仲秋の冬を思わす寒さかな  
長き夜や犬の遠ぼえつづきおり  
婆ちやまと菊持ち来る子  
抱きしめる

## わがはいもひと口？

昨年は柿の大豊作。どこへいっても柿はいらんか、柿はいらんか、そんなにあるなら、猫も味をみてみようと思ったのか、ごらんのとおり。

(写真・岡田長康さん撮影・11月14日)

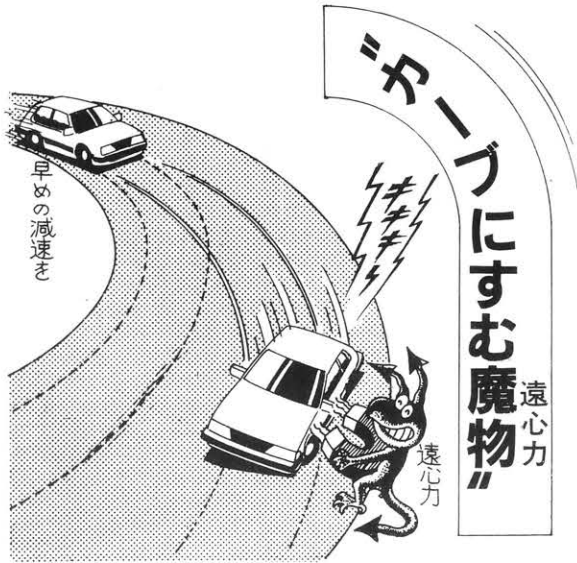


## 間伐標語決まる

馬路村林業青年クラブの間伐推進の標語が、次のように決まりました。

「間伐で根張る幹張る  
財布はる」

(写真は久木の標語板)



車がカーブを曲がる時、車体は外側に傾きながらカーブを通り抜けます。曲がる方向とは逆の方向に進もうとする力が車に働くからです。この力が遠心力です。遠心力はスピードが出れば出るほど強くなり、車がその力に耐えられなくなると横転したり、反対車線に飛び出したりして、重大事故につながります。遠心力は、いふなれば「カーブにすむ魔物」です。

このような事故を防ぐ運転技術はというと——要は早め早めの減速です。いくら腕に自信があっても遠心力には勝てません。

スピードを出しすぎて「カーブの魔物」にとりつかれないためにも、カーブの手前では必ずスピードを落としましょう。また、同乗者は「もっとスピードを出せ」などとドライバーをおおったりしてはいけません。

お年玉



現代っ子にとって、正月はお小遣いのかき入れ時。「お年玉」がバカにできない額になります。「年玉」は新年の賜り物の意とされています。しかし「賜」に「玉」の字があてられているところから、いろいろな説が考えられています。「玉」は丸い形をしたものの総称で、珠のように美しいもの、大切なものの意味にも使われてきました。年のはじめに家長が家族に与える年玉は、お金や日用品になる以前は食物に限られていたように、米や丸餅などが用いられました。民俗学では、年頭に餅を神に供え、それを家族に配ると、神の靈威が一人一人に分け与えられたものとしています。民俗学者の柳田国男（一八七五～一九六二）の説によると、丸餅はもともと心臓の形を模したものでした。丸餅の年玉には丸い意味の「玉」と、心を意味する「霊」の両義がこめられていたこととなります。そうしたお年玉の精神的な意味を、見直す必要がありそうです。

ごめい福を  
お祈りします



氏名	尾崎輝美	性別	男	行年	81	亡月日	12月13日	世帯主	順一	続柄	父	部落	影
----	------	----	---	----	----	-----	--------	-----	----	----	---	----	---

ミギヤマトー

第十四回馬路村文化祭への出品作品のなかから、ちぎり絵を四点ご紹介します。



一細川千代（コスモス）



←伊吹芳子（錦秋）

↓山中里子（丸田沢風景）



←国見喜美恵（深秋）

